

2 - 1 重点事業評価

事業名

子どもから高齢者まで多様なニーズに対応できる資料の収集と提供

(1) 事業の概要

● 対象

子どもから子育て世代・高齢者まで、すべての年代の県民と本県に関心のある全国の人たち

● 意図・目的

子どもから子育て世代、高齢者まで、幅広い年代向けの資料の充実を図るとともに、利用しやすい環境を整えることで、更なる利用の定着を図る。

● 具体的取組の概要

① 県立図書館がもともと得意としている専門書・研究書・郷土関係資料などの一層の充実を図るとともに、図書館サービスの付加価値として、関連する講演会や講座を開催する。

② 「くらしガーデン」のスペースを拡張し、ニーズの高い「くらし関連」の資料のうち、特に健康・医療関係や芸術文化関係の資料の充実を図るとともに、「家庭と子どもの本」コーナーを新たに設置し、子育て世代が家族連れで利用しやすいよう、料理本や育児関連図書、児童書を一箇所にまとめて提供する。

(2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
子育て世代の利用 （30歳代の個人貸出冊数）	年間80,000冊	年間102,557冊 （達成率128%）

（前年度実績 79,213冊）

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価	A	「家庭と子どもの本コーナー」や「健康コーナー」を新設し、資料の充実を図ったことにより、子育て世代である30歳代の利用が大幅に増加した。
------	---	---

A 目標が十分に達成された。

B 目標がある程度達成された。

C 目標の達成が不十分である。

D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズ又は図書館の使命や方針に照らして、妥当か。	昨年度の貸出数79,213冊に比べて、大幅に増加していることから、子育て世代の支持を得ていることがわかる。利用者層の偏りが解消されつつあると認識している。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか。	本年度の達成目標を20,000冊上回る100,000冊以上の貸出があり、期待以上の成果が得られた。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等。	6月に「くらしガーデン」スペースを拡張するとともに、「家庭と子どもの本コーナー」を新たに設置し、子育て世代が利用しやすい環境の整備と資料の充実を計画的に行った。

(4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

今後も利用者ニーズの変化に対応した資料の収集・提供を心がけ、幅広い年代の利用者の支持が得られる水準を維持したい。

(5) 図書館協議会意見

「入館者数・貸出冊数等、驚くべき成果をあげた。子育て世代の発掘は大成功だった」との意見に代表されるように、本年度も引き続き利用が大幅に増加し、実績を上げている点は、協議会として高く評価している。高度で専門的な図書館というイメージから、広く県民に門戸を広げる方向に転換し、子育て世代の利用拡大を図る、という目標設定、及び設定した指標の適切さを評価する意見も、協議会委員の間で多かった。さらに、読書好きな子どもを育て、子どもたちの将来の図書館利用の拡大につながる種まきとして、事業の意義を評価する意見もあった。

他方で、明確な数値目標が本館の活性化に大いに役立ったことは高く評価しつつも、「県立」図書館としての役割をより明確化し、そろそろ量から質への転換を図る時期ではないかとか、県立図書館としての使命である専門書、研究書、郷土資料の収集・提供とのバランスをどう図っていくか考える必要がある、新潟市立図書館との差別化をどう図るか等、事業の位置づけについて再考を促す意見があった。

そのほか、指標とその達成目標について、他の年齢層との比較を促す意見があった。

そのほか、次のような意見があった。

- ・以前から気になっていたミニイベントを、ボランティアの力で、短時間であっても日曜日に開催できていることを嬉しく思う。気軽に参加できるスタイルも好ましい。
- ・幅広い年齢層が利用することにより、トラブルも発生すると思われ、館内の案内表示・職員の対応も含め、資料提供の仕方を考える必要がある。
- ・分野別に分けた書架の配置は、とてもわかりやすくて良い。しかし、雑誌が分散してしまっているので、場合によっては目的の雑誌をさがすのにかえって手間がかかる場合があるかもしれない。